

ホタテ浮遊幼生湾奥部に出現!!

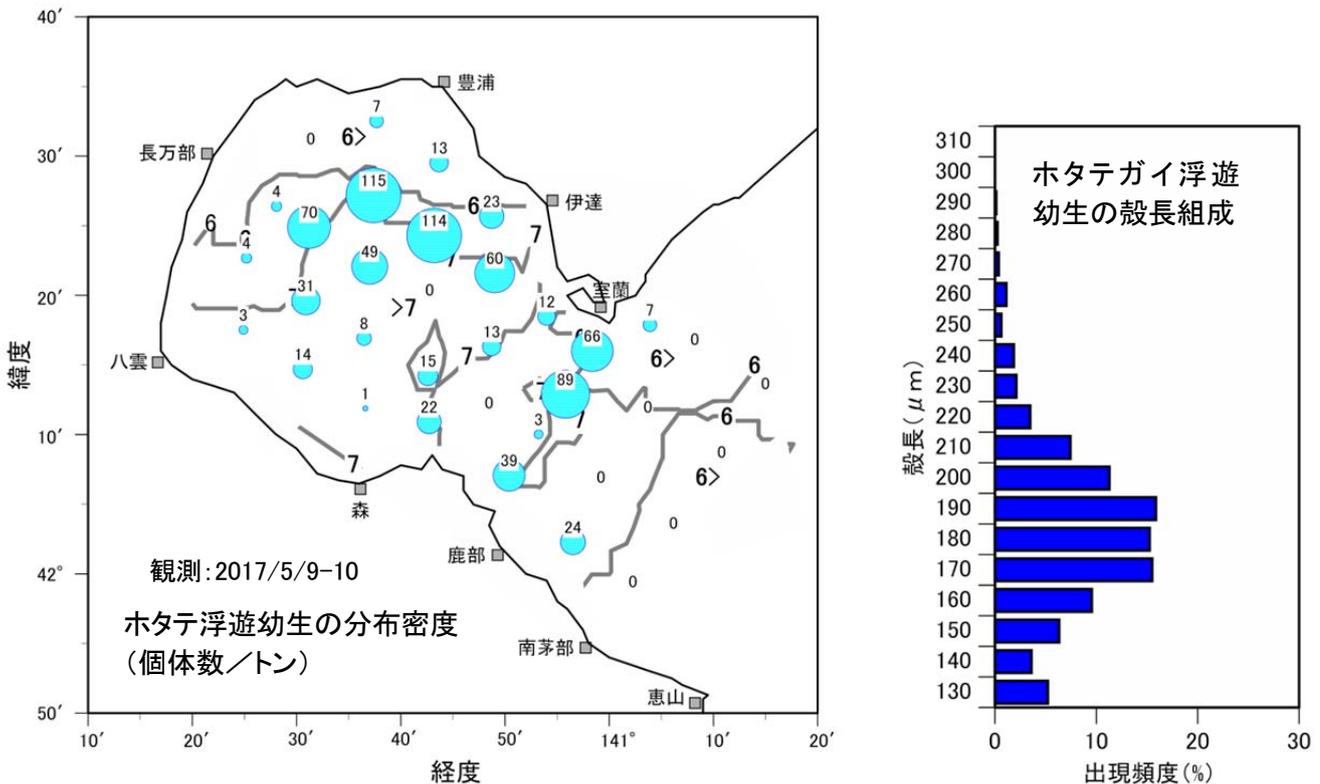


図1 (左)ホタテガイ浮遊幼生分布密度(○印, 個体数/トン)と10m深水温(灰色線)の水平分布。(右)全調査地点で平均したホタテガイ浮遊幼生の殻長組成。調査期間:2017年5月9~10日。

【概要】

2017年5月9~10日におけるホタテ浮遊幼生の出現状況をお知らせします。ホタテ浮遊幼生は主に湾口部から湾中央部の海域を中心に出現していますが、分布密度は高いところで100個体台と、例年に比べオーダーで1~2桁低くなっています(図1左)。ホタテ浮遊幼生の出現数が少ないのは、ホタテの産卵盛期を迎える時期が各海域ともに遅れていることに起因していると考えられます。湾内の10m深水温は湾中央部で約7°Cと平年並みですが、湾奥部の豊浦から長万部にかけては5°C台と例年よりも約1°C低くなっています。この海域ではホタテ浮遊幼生の出現数は少なくなっています。ホタテ浮遊幼生の殻長組成では170~190 μmの割合が最も高くなっています(図1右)。

深度13mにおける流速ベクトルの水平分布を図2に示します。湾内の流れは20cm/s以下と弱く、環流の形成はみられません。この時期としては、ほぼ平年並みの流れになっています。

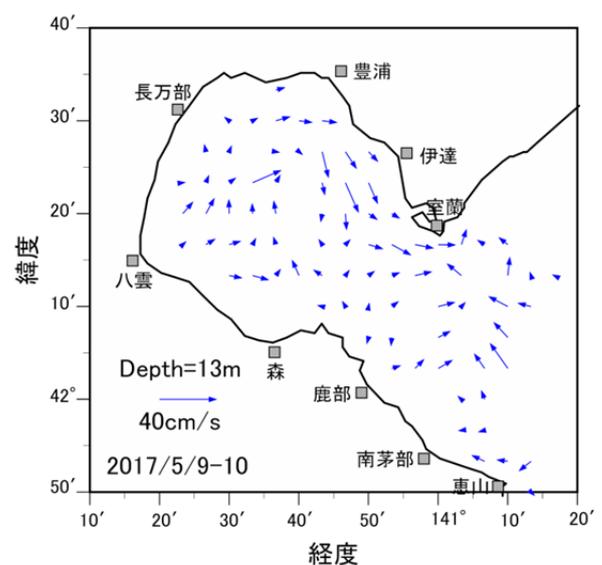


図2 深度13mにおける流速ベクトルの水平分布

次回の浮遊幼生調査は6月6~8日を予定しています。

(連絡先:函館水産試験場 西田 TEL:0138-83-2893)

この情報は以下の函館水試ホームページからもご覧いただけます。

<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/section/zoushoku/tpc053000000081x.html>